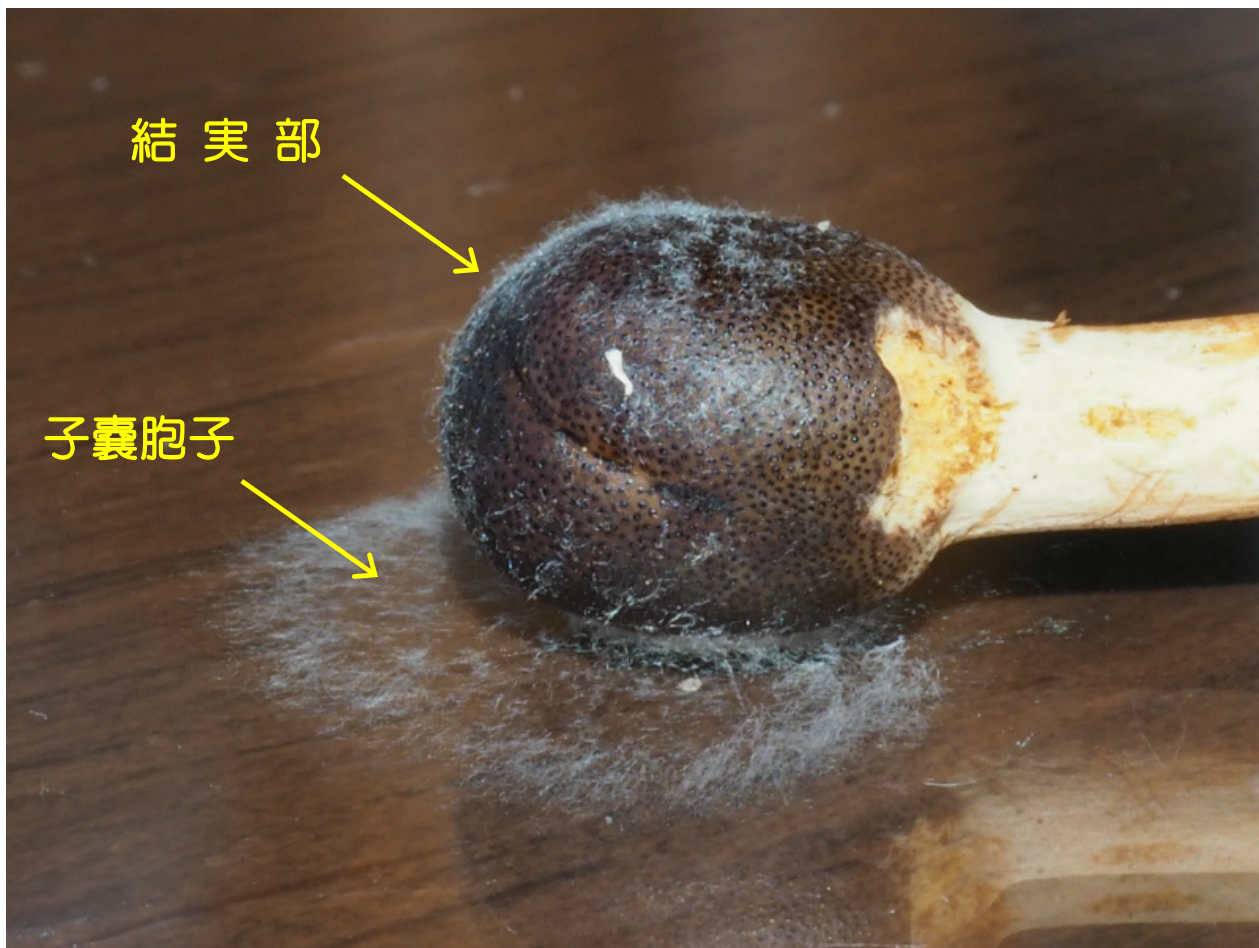
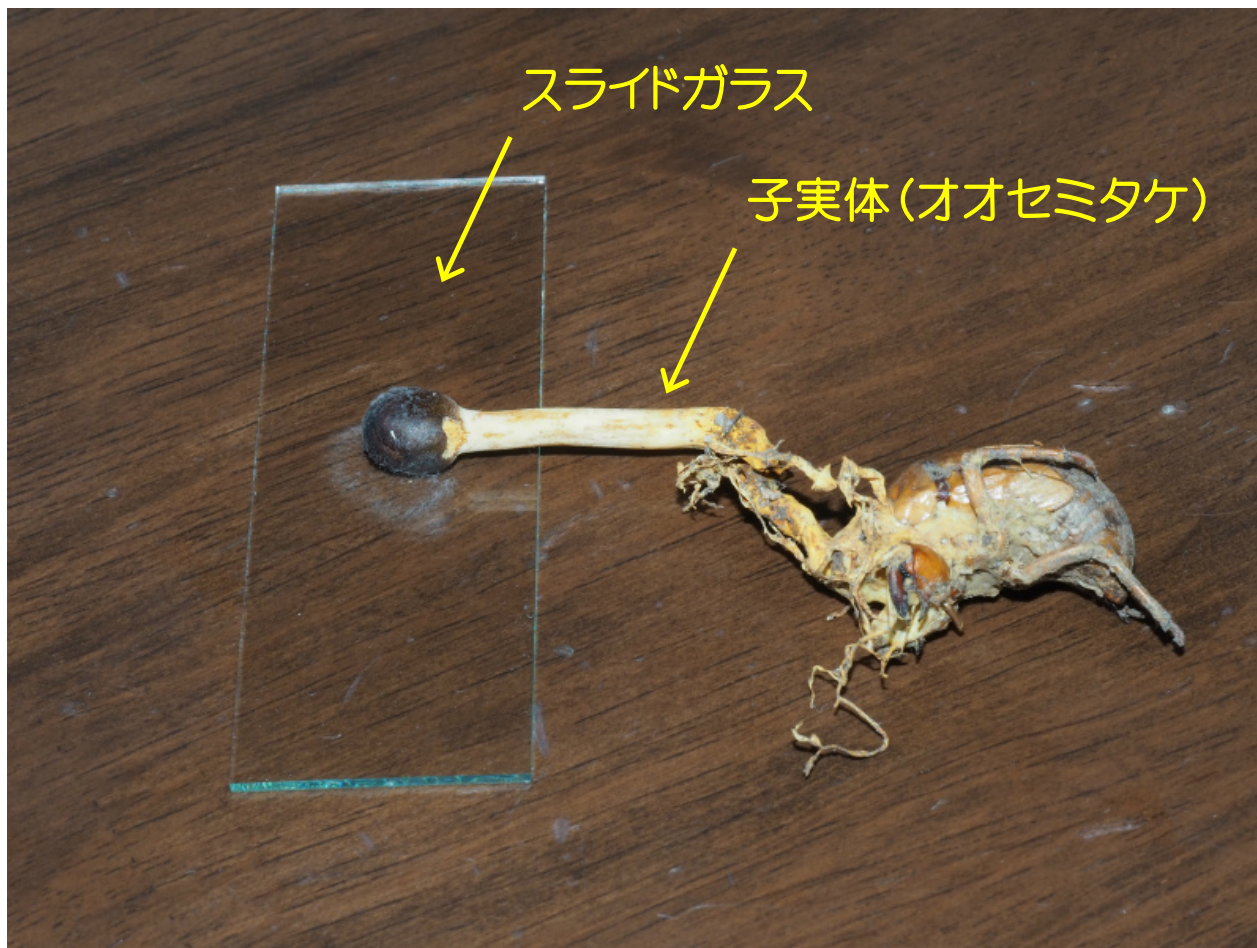


●オオセミタケ (*Ophiocordyceps heteropoda*) の採取

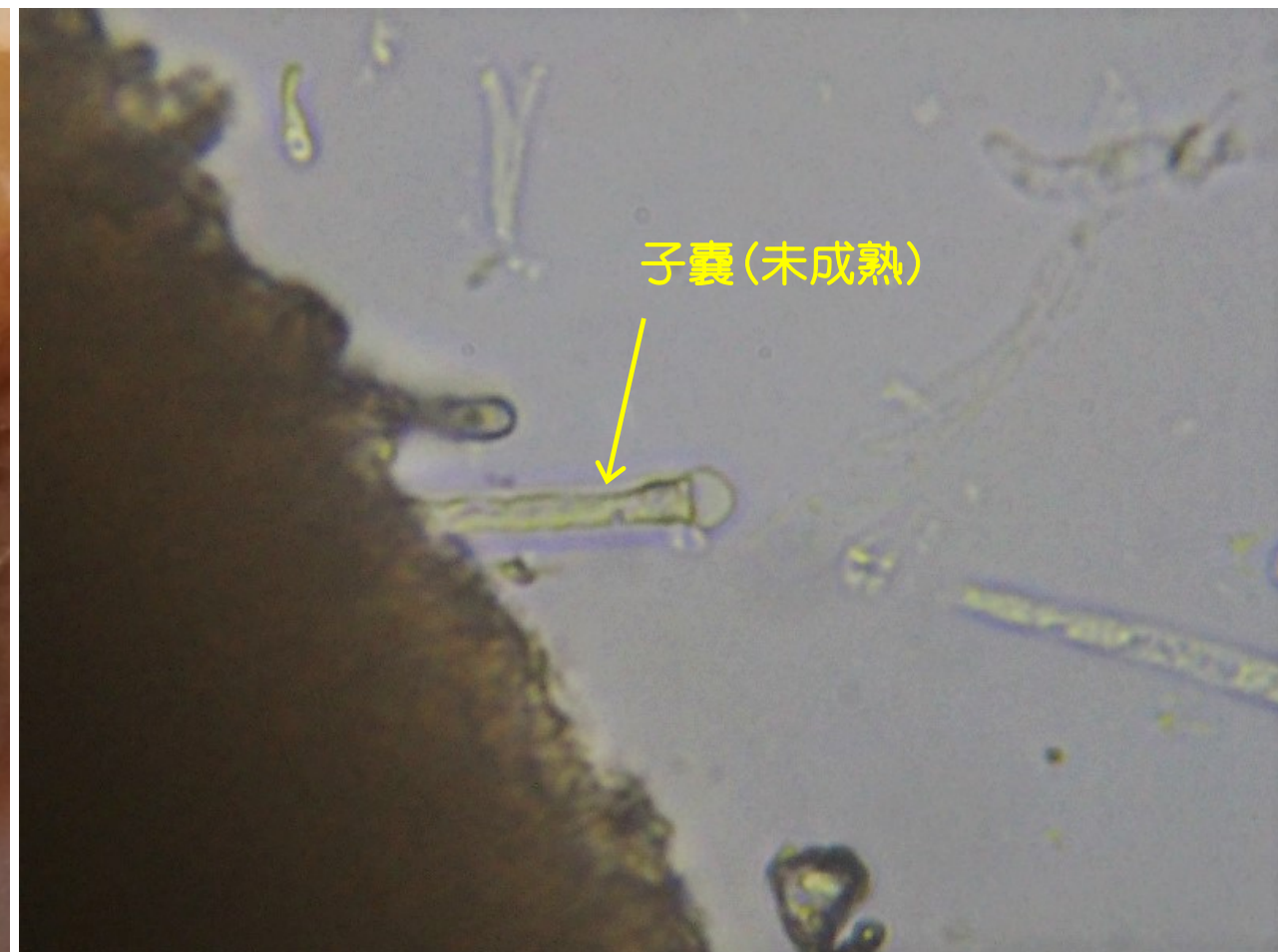
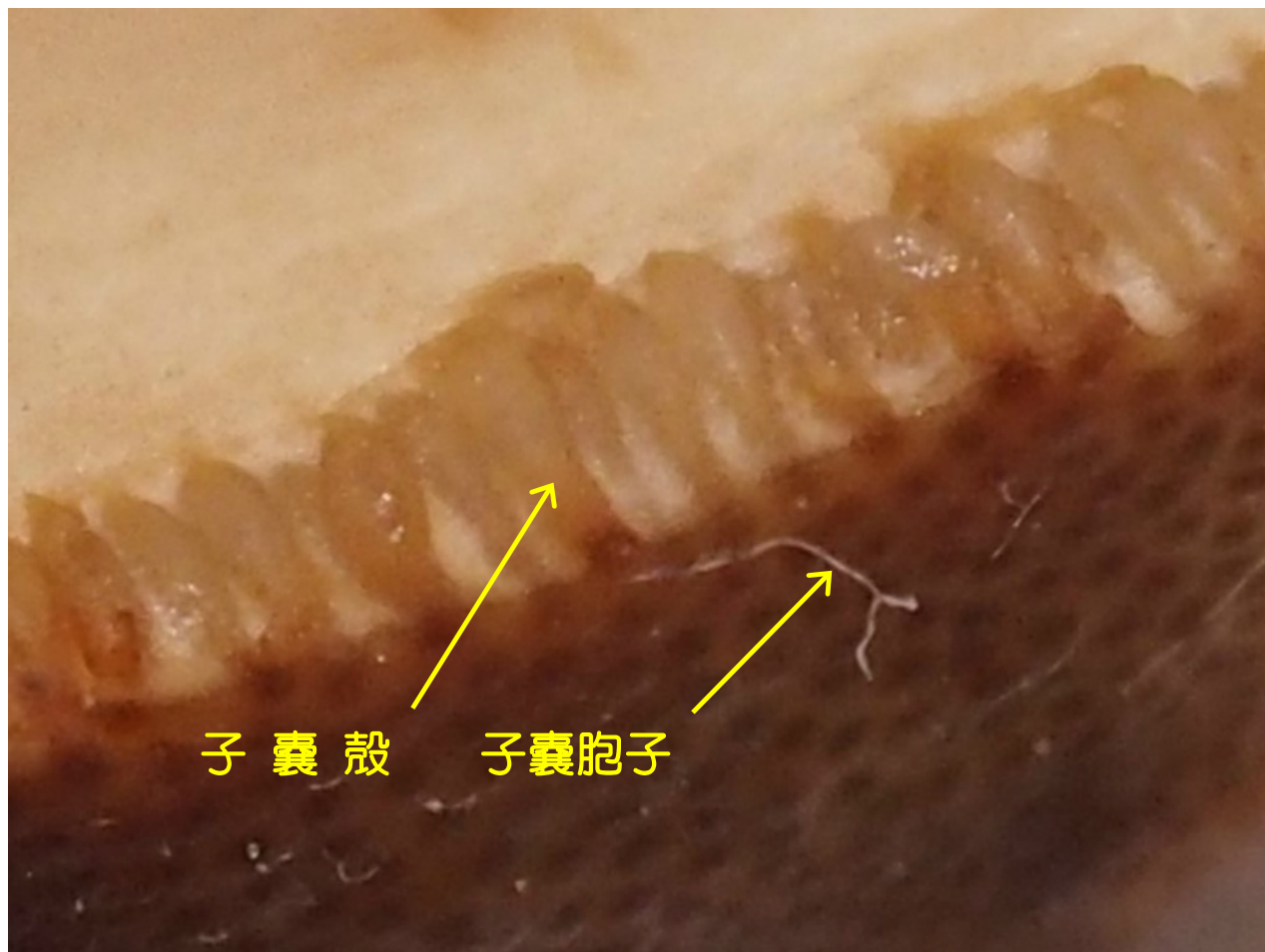
私の事務所の近くにある公園の駐車場に植えられていたサクラの木の根元を見ると、オオセミタケの子実体の先端部を2つ見つける事が出来ました。掘り出してみますとアブラゼミの幼虫の頭部から柄部が2本生えたものでした。この他にも5個のオオセミタケを見つける事が出来まして、そのうち3個体が完熟状態に至っていました。完熟状態の子実体からは胞子を採取し、光学顕微鏡で観察しました。

●オオセミタケの胞子の顕微鏡観察(1)：子嚢胞子の採取法



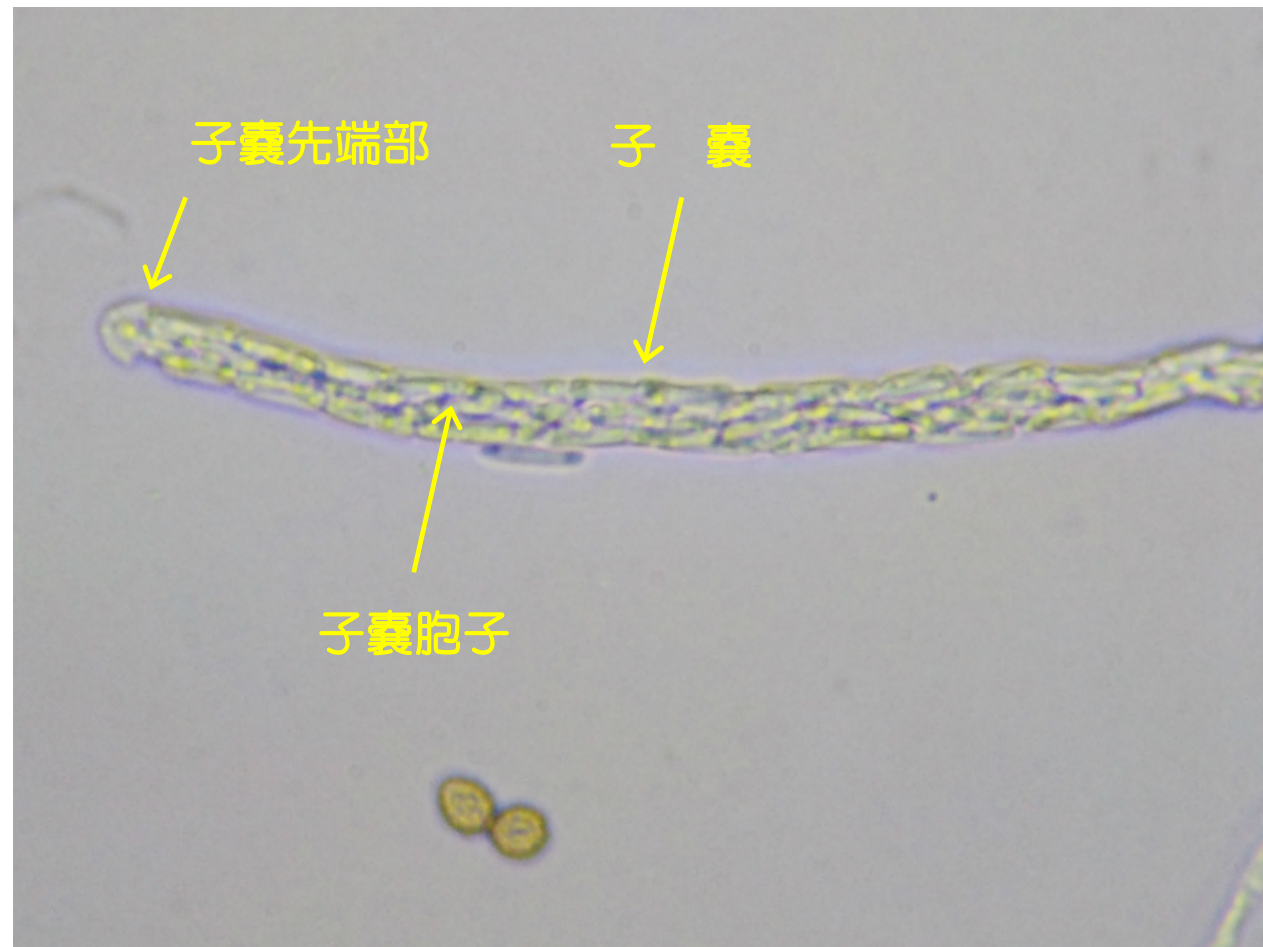
子実体から胞子(子嚢胞子)を採集する方法の一つに、「子実体の結実部をスライドガラス上に放置する」というものがあります。これは、結実部の表面に分布する子嚢殻から放出された子嚢胞子をスライドガラスの表面に集めるとい手法です。風の影響を防ぐためにガラス製の覆いなどを被せます。採集した胞子は水封せずに光学顕微鏡で観察(ドライマウント法)した後、水封して子嚢胞子や二次胞子の構造を観察します。

●オオセミタケの胞子の顕微鏡観察(2)：子嚢胞子の放出



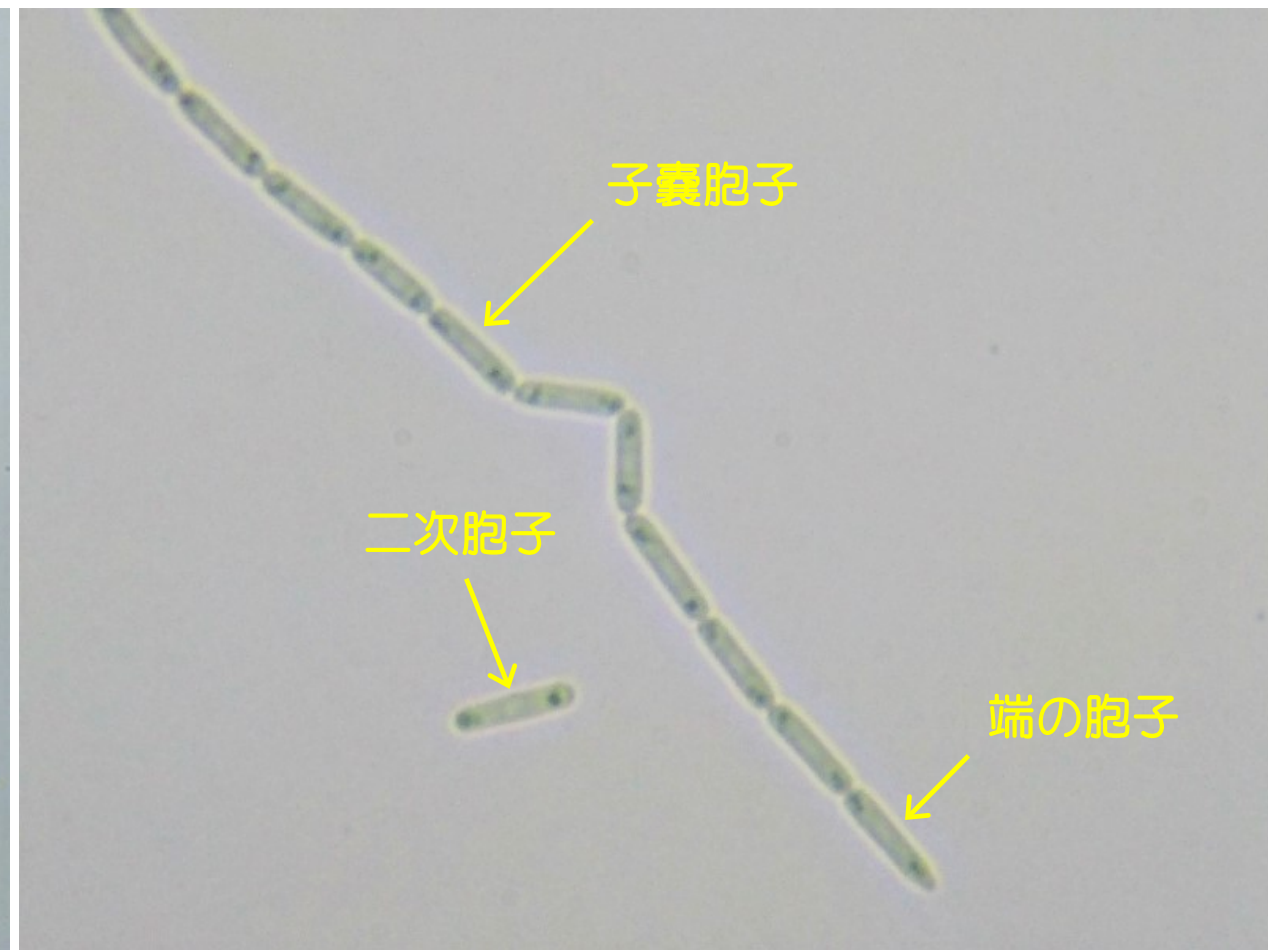
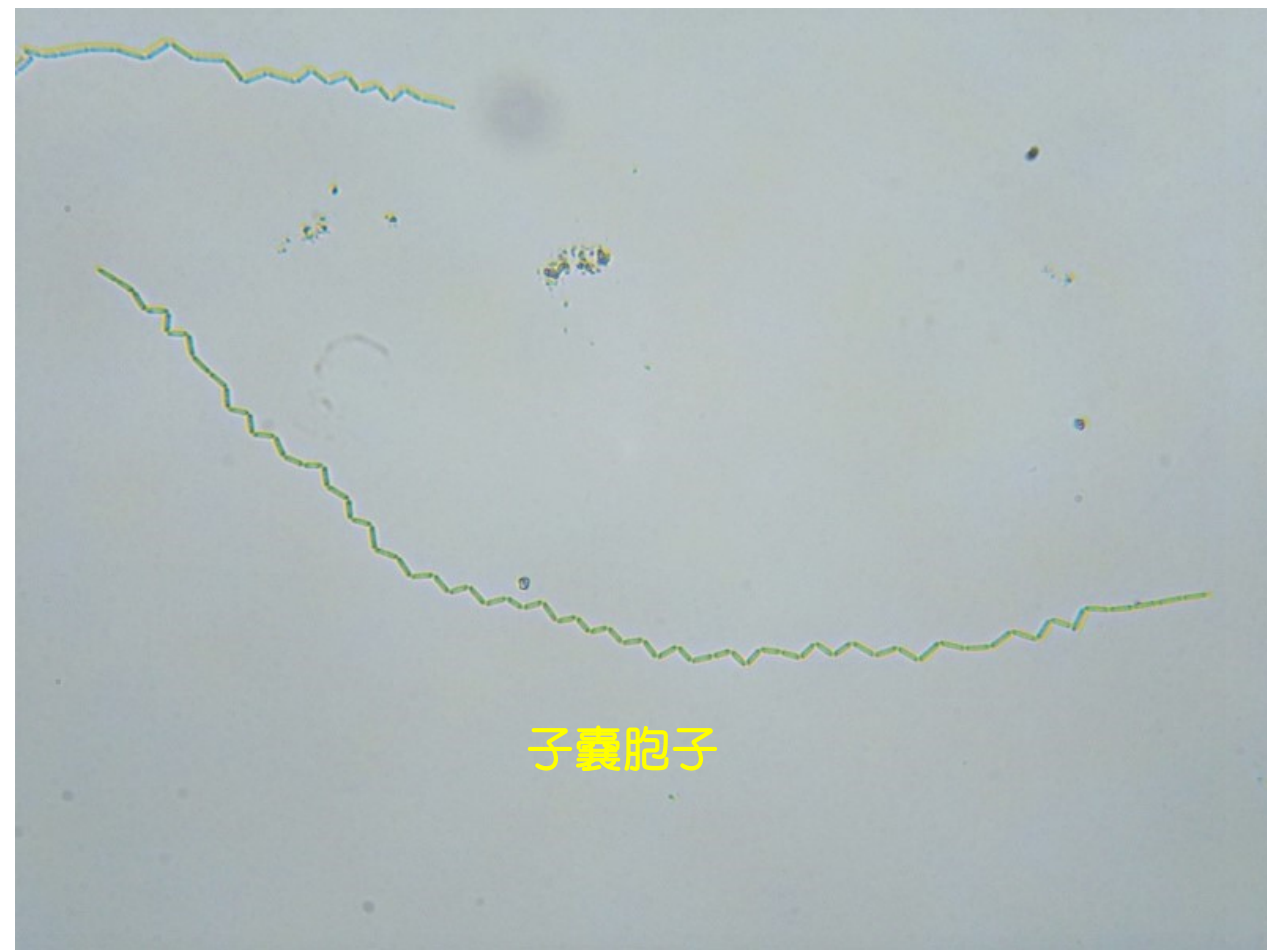
オオセミタケの結実部を切断しますと「子嚢殻」が現れます。子嚢殻は有性生殖を行う生殖器官で、内部には胞子を包む鞘状の「子嚢」が形成され、さらにその内部に「子嚢胞子」が形成されます。成熟すると子嚢殻の先端から子嚢胞子が放出されます。左の写真は子嚢殻から子嚢胞子が放出されている様子を実態顕微鏡で観察したもので、右の写真は子嚢殻から未成熟の子嚢を無理やり押し出して光学顕微鏡で観察したものです。

●オオセミタケの胞子の顕微鏡観察(3)：子嚢の構造



オオセミタケの結実部より採取した成熟した子嚢を光学顕微鏡で観察しますと、袋状の子嚢の内部に多数の子嚢胞子が形成されている事が分かります。子嚢胞子は多細胞で、通常は一つの子嚢内部に8本の子嚢胞子が形成されます(稀に4個形成される場合もあり)。子嚢の先端部は厚く肥大化しており、この中心部には細孔が存在します。子嚢内部で成熟した子嚢胞子はこの細孔を通過して外部へ射出されます。

●オオセミタケの胞子の顕微鏡観察(4)：子嚢胞子と二次胞子



オオセミタケの子嚢胞子は糸状で、隔壁により64個の二次胞子に分裂します。二次胞子の形状は円筒型ですが、両末端の二次胞子だけは先端が細くなります。二次胞子への分裂数や形状は、その種を特徴づけるもので、同定を行う際の基礎的なデータとなります。

●オオセミタケ酒をつくる！

滋養強壯を目的にオオセミタケを酒に漬けて熟成させて薬用酒を作る地域があるそうです。

私も採取したオオセミタケをホワイトリカーに漬けて薬用酒を仕込んでみました。

仕込んでから一週間程で薄い茶色に色付いてきました。

このまま半年ほど熟成させてみてから、味見してみようと思います。どなたか付き合ってくださいませんか？



仕込みたての状態



仕込んでから3週間後